

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 9 号:2010 年 1 - 2 月期】

* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済発展実績

2009 年度ウズベキスタンの GDP 成長率は 8.1%

鉱工業生産 9%、農業生産 5.7%、小売売上高 16.6%、サービス売上高 12.9%の成長率だった。国家予算は当初の予定支出額を縮小することなく黒字で執行された。インフレ率は予測の枠内に納まり、7.4%であった。2009 年には国産化製品生産額が 2.3 倍に増え、120 を上回る新種製品が国産化された。

政府予測ではウズベキスタンの 2010 年の GDP 成長率は 8.3%になる。同じく鉱工業生産は 8.3%、農業生産は 5%、固定資本投資は 22.1%、小売販売高は 16.3%の成長が予測されている。インフレ率は 7 ~ 9%の範囲内にとどめることが計画されている。国家予算の赤字は GDP の 1%、すなわち 6,161 億 500 万スムの水準で織り込み済みである。予算赤字の補填は年初現在の余剰金と他の非インフレ財源によって行なわれる。

世界銀行の予測によれば、2010 年と 2011 年のウズベキスタン経済成長率は 6.5%である。欧州復興開発銀行は、2010 年 7.8%、2011 年 7%の成長率を予測している。

2009 年のウズベキスタンの外国貿易額は前年比 0.1%の成長、総額 212 億ドル

CIS 諸国との貿易額は 7.5%減少し 80 億ドルに低下したが、それ以外の国との貿易額は 5.3%増の 132 億ドルとなった。輸出は 2.4%増で 117 億 7,100 万ドルとなり、輸入は 2.7%減で 94 億 3,800 万ドルとなった。出超は 2008 年の 118.4%に対し 124.7%となり、貿易黒字は 23 億 3,300 万ドルであった（2008 年は 17 億 9,600 万ドル）。貿易収支のこの動向は前年に比べエネルギー担体の輸出が 1.42 倍、食料品の輸出が 1.39 倍増えたことに関係している。

税率と課徴金の率が一部変更され、一連の法規改正が行なわれた。

2010 年 1 月 1 日より、個人の所得税率が、低所得（最低賃金の 6 倍までの所得）税率に関して 12%から 11%に下げられた。中および高所得税率については変更がない。国

民が賃金所得から財務省付属「年金基金」に納付する強制保険料の率は、3.5%から4%へ引き上げられた。ウズベキスタンの居住者へ配当および利子として支払われる所得の税率、並びに付加価値税の税率はこれまでと同じでそれぞれ10%と20%である。法人利潤税の基準税率は10%から9%に引き下げられた。零細・小企業を対象とする単一納税の税率も1%引き下げられ8%から7%となった。

2010年1月1日現在のウズベキスタン定住者数は2,800万800人

ウズベキスタン定住者数は2009年年間46万7,400人(1.7%)増、2008年度は48万3,100人(1.8%)増であった2009年1月1日の時点では2,755万5,000人であった。

二国間関係

ウズベキスタンとバーレーンが相互に投資を保護

カリモフ大統領は2010年1月7日、投資の奨励と相互保護に関するウズベキスタンとバーレーンの政府間協定を承認した。この協定は昨年11月16日にガニエフ・ウズベキスタン副首相のバーレーン訪問中にマナーマで調印された。

テヘランで貿易経済・科学技術協力に関する第10回ウズベキスタン・イラン政府間合同委員会開催(2010年1月17-18日)

審議の成果についてイラン貿易相とウズベキスタン副首相が文書に署名した。この文書には特惠関税が適用される商品リストを27品目から100品目に拡張することが決められている。2009年のウズベキスタン・イラン両国間の貿易額は約4億ドルであった。

オマーンがタシケントに外交代表部開設を決定

昨年10月にウズベキスタン大統領がオマーンを初めて公式訪問した。両国は石油ガス分野、石油化学、冶金、建設、機械製造、繊維などの部門での共同案件の実現、農業での共同研究実施に関心を持っている。

経済協力に関するロシア・ウズベキスタン政府間委員会の定例会合は今年上半期にタシケントで実施予定

2009年1月14日に開催された第11回会合では2008-2012年のロシア連邦・ウズベキスタン共和国政府間経済協力プログラムの措置計画に調印した。

投資政策

ウズベキスタンのエネルギー産業近代化への投資は2009年に3.5倍に増加

海外からの融資 4,704 万ドルと「ウズベキスタン復興開発基金」の融資 1 億 6,526 万ドルがウズベキスタンのエネルギー産業近代化に使われた。

ウズベキスタン復興開発基金は今年度、23 件の投資案件実施に参加

これらの案件の総費用は 8 億 7,090 万ドルで、エネルギー産業の発展に最も多額の投資（3 億 3,740 万ドル）が行なわれる。

経済特区「ナヴォイ」で今年、11 案件（総額 3,100 万ドル）が実施される

石油ガスセクターの 3 つの投資案件は、自動車用ガススタンド設備と自動車用ガスポンプの製造、電子式ガスメーターの製造・組立、プラスチック製品の生産を韓国実業家と共同で行なうもの。2009 年 3 月にソウルにてナヴォイ経済特区の公式プレゼンテーションが実施され、オーストリア、ドイツ、インド、イタリア、韓国、中国、UAE、シンガポールの会社と 30 件を超す投資案件や契約が締結された。

高規格幹線自動車道建設にアジア開発銀行から融資導入を計画

ウズベキスタン政府は国家 1 級幹線自動車道を建設するためにアジア開発銀行から総額 5 億 8,500 万ドルのマルチランシェ融資を導入することを計画している。今年上半期中に第 1 回ランシェ支出（金額はさらに詰められる）に関する協定の調印が計画されている。2009 年 5 月に総費用約 26 億ドルで 2009 - 2014 年の国家 1 級幹線自動車道建設プログラムが承認された。このプログラムの枠内で 2015 年までに幹線自動車道の 4 区間（総延長 1501km）を建設することが計画されている。

金融セクター

昨年の銀行増資は記録的

昨年の 12 ヶ月間にウズベキスタンの銀行は 13 件の増資により定款記載資本金を合計 4,892 億スム増やした。2008 年には 21 件の増資により銀行が発行した株式の総額は 2,764 億スムであった（77%の増加）。大統領の決定に基づき今後最大の資金注入が行なわれるのは「ナロードヌイ・バンク」で、その資本金は 4 年間に 100 億スムから 1,000 億スムへ、次いで 2,000 億スムへと増額される。

Hi-Tech Bank に営業免許

中央銀行は民間の非公開株式会社 Hi-Tech Bank にすべての種類の銀行業務を行なう免許を発給した。Hi-Tech Bank の資本金は 52 億 5,000 万スムで、法人ではなく個人の出資比率が 51%を占める。現在、ウズベキスタンの商業銀行数は 31。

エネルギー・セクター

韓国との合弁企業 UzKorGasChemical がウスチュルト・ガス化学コンプレックスの建設を開始の予定

建設費用 33 億ドルの同施設は、スルギル・ガス鉱床（ウスチュルト地域）に建設される。合弁企業は 2008 年 2 月に「ウズベクネフチェガス」と韓国コンソーシアム（Kogas, Lotte Daesan Petrochemical Corp., LG International Corp., SK Gas, STX Energy が参加）によって設立された。案件のファイナンスは韓国コンソーシアムが誘致し海外投資および融資 16 億 9,400 万ドルと、ウズベクネフチェガスの自己資金 12 億 1,000 万ドル、ウズベキスタン復興開発基金の融資 3 億 5,000 万ドルにより行なわれる。案件の予定表によると、コンプレックスの第 1 期分は 2011 年 11 月に操業を開始する。2012 年末までに全施設がフル操業に入る予定。

アハンガランとアンディジャンの小規模水力発電所が完成

総費用 5,200 万ドルの同案件は、中国電工設備総公司（CNEEC）がゼネコンとなり実施された。2007 年にウズベキスタン農業・水利省は CNEEC と総額 1,800 万ドルの契約を結んだ。これはアンディジャン（出力 50MW）、アハンガラン（21MW）両水力発電所への設備納入、2 基の発電機の工事監理、さらにスタッフの教育を取り決めていた。

案件のファイナンスは、政府保証により中国輸出入銀行から供与された 1,593 万ドル、「ウズヴォドエネルギー」の自己資金と国家予算で行なわれた。小規模水力発電発展プログラムにより総出力 423MW、年間 13 億 6,000 万 kWh の電力を生産する 15 の発電所の建設が計画されている。

ウズベキスタンで 2009 年に 13 の新たな炭化水素鉱床を発見

うち 5 つの鉱床は「ウズベクネフチェガス」傘下の企業が、8 つの鉱床は海外企業が発見したものである。2009 年に実施された 2D および 3D 地震探査により 47 の有望構造が発見され、その掘削準備が行なわれた。30 本の新たな試掘が開始され、78 本の井戸の仕上げが完了した。国内の炭化水素埋蔵量は前年比で 13.8% 増加した。

アングレン炭鉱の近代化案件入札で China Coal Energy Limited が当選

案件の実施後には同露天掘り炭鉱の産炭量は年間 640 万トンに増える（2009 年は 320 万トン）。予備的資料によると、近代化事業は 2010 年後半に始まり、2012 年初めに完了する。案件のファイナンスは中国輸出入銀行の融資 1 億 2,040 万ドルと「ウズベクエネルギー」の自己資金 3,400 万ドルで行なわれる。

「ペトロベトナム」とウズベクネフチェガスがコソル投資ブロック(ウスチュルト地域)の地質探査実施で協力の見通しを審議

2008年に両社は石油ガス分野協力協定に調印したが、この協定は地質探査、新地域の石油ガス埋蔵可能性レベルの調査、専門家交流の3方向を定めていた。ウズベキスタン、ベトナム、その他の国の領内で地質探査および支援業務を行なう合弁企業の設立が計画されている。現在、ウスチュルト地域ではロシアのガスプロム、ルクオイル、韓国の大宇とKOGAS、中国のCNPCとマレーシアのペトロナスが地質探査を実施している。この地域における地質探査に外国会社が行った投資の総額は7億ドルのオーダーに達している。

ウズベクネフチェガスが2010年11月に傘下の「シュルタンネフチェガス」社で液化ガス増産案件を実施

プロパン・ブタン混合ガス製造装置の第5期、第6期工事が実施される(費用9,750万ドル)。これにより年間60億m³オーダーの天然ガスを加工し、10万トンの液化ガスを追加的に生産できるようになる。案件のファイナンスはウズベクネフチェガスの自己資金4,750万ドルとウズベキスタン復興開発基金の融資5,000万ドルで行なわれる。2010年前半に装置の建設を開始する計画である。

ウズベクエネルギーが2010年にシルダリア、タリマルジャン両火力発電所の近代化を実施
費用2,000万ドル。ファイナンスはウズベキスタン復興開発基金の融資1,400万ドルとウズベクエネルギーの自己資金600万ドルで実施される。

その他のセクター

中国のコンソーシアムがウズベク・英国合弁企業「アマンタイタウ金鉱」に投資

2010年16年に1億8,500万ドルを同金鉱の発展のために投資する。中央キジルクム砂漠で金を採掘するアマンタイタウ金鉱の株式50%を保有する英国Oxus Gold社は、中国コンソーシアムが合弁企業に資本参加する契約に調印した。中国コンソーシアムには次の会社が参加している。中国政府支配下の白銀非鉄金属公司、中信建設公司、それに民間の投資ファンドChang Xin Yuan Su(天津)。契約条件に基づき、コンソーシアムは第1段階で(2010年中に)金抽出工場第2期工事へOxus Gold社の株式と交換で8,500万ドルを投資する。コンソーシアムはまた、合弁企業の発展と産金量増大に8,000万ドルを投資する義務と引き換えに総額2,000万ドルの株式の5年間コールオプション条項に署名した。

合弁企業は2011年上半期に工場の第2期工事分を稼働開始させる。この新施設は年間40万トンの酸化鉱石を加工し、10万オンスの金を12年間にわたり生産する能力が

ある。合弁企業「アマンタイタウ金鉱」(資本金 1,160 万ドル)の設立者は Oxus Gold (出資比率 50%)、ウズベキスタン国家地質・鉱物資源委員会(40%)、ナヴォイ採鉱・冶金コンビナート(10%)である。

1月22日、アフガニスタンで鉄道「ハイラトン＝マザリ・シャリフ」線の工事開始

工事のゼネコンはウズベキスタン国鉄(ウズベキストン・テミル・イウラリ)。延長 75km の全線と幾つかの駅は今年中に完成し、営業を開始する。本案件にはアジア開発銀行の資金 1 億 2,900 万ドルが利用される。さらにこの工事の過程でハイラトン駅の改修も行なわれる。ウズベク側はまた、営業開始後の線路の保守修理を担当するアフガン側鉄道専門家の養成に協力する。

タシケント州で国際物流センター「アングレン」が操業開始

このセンターは「アブリク」鉄道駅をベースにして開設されたもので、あらゆる種類の貨物の受入と積み下ろし、これらの貨物のフェルガナ盆地(アンディジャン州、ナマンガン州、フェルガナ州)向け自動車輸送を目的としている。予測では、2010年にこの新物流センターを経由して 420 万トンの貨物が輸送される。非公開株式会社「アングレン物流センター」(資本金 6 億スム)は 2009 年の半ばに設立された。設立者は出資比率が 16.66% ずつで同等の株式会社「ウズアフトサノアト」、国有鉄道株式会社「ウズベキストン・テミル・イウラリ」、国有持ち株会社「ウズベクネフチェガス」、国有株式会社「ウズキミョサノアト」、株式会社「ウズストロイマテリアリィ」、「食品・油脂工業協会」である。